

2026年6月29日

意見陳述

相嶋静夫妻

夫はまだ死にたくなかった。

本社での仕事に区切りがついたら富士宮の研究所で新規商品の開発と後輩指導をするんだと、ずっと楽しみにしておりました。

住まいも横浜から富士宮に移し、やっとその時期がきたと目を輝かせて喜んでいました。

私と夫は20才の時知り合い、それからずっと一緒に人生を歩んできました。

忙しい日々の中でようやくゆっくり老後の生活など話せる時がきたと大変嬉しく思いました。

夫は小さい時から物づくりが大好きで、夢は人の役に立つものを作ることだと学生時代から話していました。

収入とか、名誉より自分の信念を大事にして揺らぐことはありませんでした。

夫は富士宮に移住した後も事情聴取に応じて1年間原宿署に行っていました。

経産省との条文作りにも協力し、曖昧な表現は混乱するからだめだと強く意見したと言っていました。

そういった協力態勢の中で、夫は警察も経産省も説明したことは理解してくれたものと受け止めていました。

ところが2020年3月11日朝8時、突然、私服警察がやってきて、理由も告げず夫を連行しました。

次の日のニュースで逮捕されたことを知り驚きました。

1年間の事情聴取、経産省への協力をすべて裏切る形での逮捕・勾留でした。

あいつらのやり方は汚いと夫は言っていました。

妻の私としては、71才まで仕事一筋で真面目に生きてきたのに 何て酷いことをするのか、怒りと不安がこみ上げてきました。

面会もなかなか許されず心配ばかりが募りました。

長年一生懸命働いてきたのに理由もなく逮捕勾留するなんて。

やっと面会ができたときには夫はひと回りやせていました。

俺はなんにも悪いことなんてしていない！

なんでこんな目に会うのか！

怒り心頭、激怒していました。私も全く同感でした。

裁判所は会社や相嶋静夫本人の話を1度たりとも聞かず、スプレードライの機械を自分の目で確かめることもなく、警察や検察の話だけで判断するのはあまりにも一方的です。

夫は80才まで仕事を続けたいと、健康管理にも気を配り日々の血圧測定、月1回の定期検診を欠かさず続けていました。

高齢者にとって拘置所の生活は、精神的にも肉体的にもダメージが大きいだろうと、私は祈るような気持ちで帰ってくるのを待っていました。

9月に入って体調をくずしたと連絡を受けその後、胃に500円玉くらいの悪性腫瘍が見つかり告知を受けたとのことでした。

医務官から「これは外部の病院に行かなくてはいけないね。」と話があったと連絡がありました。

夫も私も専門病院に連れて行ってくれるのかと待っていましたが、一向に動きがなく時間ばかり過ぎていきました。

面会に行くと夫はゲッソリやせて、瞳の色はうすくなり皮膚は血の気がなく青白くなっていました。

早く病院に行かなくては手遅れになると焦るのですが、保釈は却下され、助けることができないのです。

私は思いあまって夫の窮状を東京拘置所の所長宛に書き留めで3回送りましたが、なしのつぶて何の返事も来ませんでした。

私は夫にはなんとしても生きていてもらいたかった。

助けるためには何でもしようと覚悟をして 夫には「ウソの自白をして 保釈してくれたらすぐ病院に行こう」と言いましたが、夫はただ黙ってうつむいていました。

この状態では、夫は拘置所の中で死んでしまう、

何も悪いことなんてしていないのになぜこんな死刑みたいなことをするのか、

私は食事は喉を通らず、夜は眠れず夫を助きたい気力だけで生きていました。

勾留中の夫でも受け入れてくれる病院がやっと見つかったときには、すでに手遅れになっていました。

入院中に出した保釈請求も却下され、夫は絶望の中で「これでも人間なのかねエー」とつぶやきながら涙を流しました。

私はこんな事件がなかったら、夫は大好きな実験をしながら、素晴らしい新規商品を作ったと思います。

夫が息を引き取った時残念で悔しくて仕方がありませんでした。

何枚か、夫や夫を大切に思っていた人たちの写真を見てください。

【1枚目】これは、今から53年前、結婚する際に夫の実家に会いに行った時に撮った写真です。

【2枚目】これは夫と次男がふざけ合っている様子です。

【3枚目】これは自宅で家族4人でバーベキューをした時の写真です。写っているのは長男です。

【4枚目】長男の子と逆上がりの練習をしている場面です。

【5枚目】長男の孫たちとカヌーを楽しんでいる様子です。

【6枚目】次男の長女を抱いて喜んでいる夫です。おじいちゃんっ子の孫でした。

【7枚目】移り住んだ富士宮で、富士山を背景に一番小さな孫である次男の末っ子と嬉しそうに写真に写っています。

【8枚目】古希のお祝いで全員集合した5人の孫たちに囲まれている写真です。

【9枚目】親戚の結婚式に呼ばれて、久しぶりに二人でホテルに宿泊した時の写真です。

夫はまだ死にたくなかった。夫にはまだ生きていて欲しかった。

執拗にくり返えされた保釈請求却下の理由を裁判官たちにお聞きしたいと思います。